

2 高齢者が活躍できる社会づくりプロジェクト

政策目標の概要(A)

高齢者がその大きな可能性や潜在力を発揮して、さまざまな分野において積極的に社会参加・社会貢献し、地域の「支え手」として活躍できるよう県全体で応援する社会づくりに取り組む。また、就労意欲の高い高齢者が、その働く意欲や能力を発揮できるよう支援する。

| 主な取組(B) | 施策(C) | 事業(D) | 個別事業(E) | | | | | | | | | | 決算額 | H25事業結果 | 事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応) | | | | | | | |
|--|-------|-------|------------------------|-------|------|---|---|--|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------|--------|---------|--|-------------------|--|---------|--|--------|----------|--------|
| | | | 個別事業名 (予算上の事業または事項) | 新規/再掲 | 担当部局 | 担当課 | 個別事業概要 | 成果(結果)を示す項目 | 目標・指標 | | | | | | 予算額 | | H25 決算 (千円) | H25事業結果 | 部局評価 | 財政課評価 | | |
| | | | | | | | | | 実績値 (過去4年間) | | 目標値 | | | | H25 当初 (千円) | H26 当初 (千円) | | | 評価 区分 | 評価の考え方 | 評価 区分 | 評価の考え方 |
| | | | | | | | | | H22 H23 H24 H25 | H25 (前年度) | H26 (当年度) | H27 (総合計画 終期) | | | | | | | | | | |
| 1 高齢者の活躍への導入支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)高齢者の活躍のきっかけづくり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 高齢者に対する普及・啓発活動などを通じて、社会参加のためのきっかけづくりに努めます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | シニア世代が自身にあった社会貢献等の活動を行うことができるよう、様々な活動メニューを提供する講座等を開催し、社会参加のきっかけづくりを行う。 (シニア傾聴ボランティア育成支援、シニア健康づくりリーダー育成講習会、シニアの社会生活支援講習会、世代間交流のためのコミュニケーション講座、団塊シニアのためのアクティブライフ講座、全国健康福祉祭選手派遣事業、ぐんまねんりんピック開催など) | 各種事業参加者数 | H22 : 2,553人 H23 : 2,426人 H24 : 2,823人 H25 : 3,586人 | 2,700人 | 2,700人 | 2,800人 | 9,922 | 9,646 | 9,601 | シニア向け各種講座の開催 561人 アクティブシニア活動見本市開催 約1,000人 全国健康福祉祭選手派遣 116人 ぐんまねんりんピック開催 1,909人 | 4 | 長寿社会づくり財団は、明るく活力ある社会づくりに向け、高齢者の生きがいと健康づくり事業等を推進する中核的組織であり、今後もより効果的な手法を検討しつつ、継続して事業に取り組む必要がある。 | 4 | 高齢者が生きがいを持って健康に暮らせるよう、より高齢者が主体となって参画できるような工夫をしながら、継続。 | | | |
| ■ NPOやボランティアなどの市民活動に関する相談に応じ、情報提供を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 特定非営利活動促進法の適正な施行、NPO・ボランティアに関する相談や情報提供、団体の基盤強化を目的としたセミナーなどを行い、市民活動を支援する。 | サロンへの相談等件数(NPOやボランティアに関する電話・来所相談) | H22 1,665件 H23 1,497件 H24 1,441件 H25 1,452件 ※H25より、日曜休館。 | 1,600件 | 1,600件 | 1,600件 | 7,300 | 7,300 | 7,257 | NPO法人の設立や運営に関する相談、ボランティア活動に関する相談・コーディネート業務等を実施した。情報誌「フリーサ」の発行(年2回)、NPO関係者等を対象としたセミナー等を開催することにより、情報発信や団体の運営基盤の充実を図った。市町に設置されている市民活動支援センターに対し、セミナーやNPO向け個別相談会等を通じてスキルアップを図るとともに、情報交換会を開催しスタッフ同士の交流を図り、連携を強化した。 | 4 | NPO法人等の運営や会計に関する相談やボランティア活動に対する情報提供・コーディネートを行い、市民活動支援を行う。また、県の市民活動支援センターとして、市町の市民活動支援センターでは対応が困難な広域的・専門的な支援を行うとともに、市町センターの対応力向上を図るため、センタースタッフのスキルアップ支援を行う必要がある。 | 4 | 市民活動の促進やNPO法人の運営に係る相談、情報提供を行うため、継続。県内NPO支援の中核として、市町村支援センターにノウハウを伝達することで、市町村のレベルアップを図る。 | | | |
| | | | | | | ボランティア活動等に関する相談・紹介のほか、養成講座及び研修会の開催並びに啓発・情報提供などを行い、ボランティア活動等を全般的に支援する。 | ①市町村災害ボランティアセンター設置訓練数 ②県内ボランティア活動者数 ③ふれあいいきいきサロン設置か所数 | ①H24年度 5箇所 H25年度 5箇所 ②H23.3.31現在数 : 149,293人 H24.3.31現在数 : 177,064人 H25 : H26.6把握予定 ③H23.3.31現在 : 1,745か所 H24.3.31現在 : 1,879か所 H25.3.31現在 : 1,986か所 H26.3.31現在 : 2,058か所 | ①8か所 ②184,000人 ③2,000か所 | ①15か所 ②222,000人 ③2,150か所 | ①35か所 ②300,000人 ③2,500か所 | 12,868 | 11,870 | 11,492 | ボランティアセンターの運営を通して、ボランティアに関する相談、関係機関の連携調整を行った。災害時のボランティアの調整等を行う災害ボランティアセンターの設置訓練を5か所で行った。身近な地域における居場所づくりとして、「ふれあいいきいきサロン」の普及啓発に努めた。 | 4 | 本年2月の雪害時には、既に災害ボランティアセンター設置訓練を受けた市町村社会福祉協議会を中心に、県民支援に迅速に取り組んだ。今後も震災等の災害が予想される中、災害対応を含めたボランティアの重要性は増している。また、地域のつながりが薄れる中、身近な地域での居場所づくりは地域福祉向上のため重要である。以上のことから、継続して育成、普及啓発に努める必要がある。 | 4 | ボランティア活動を支援するため、ボランティア活動のコーディネートやボランティアの養成・研修が重要であり継続。 | | | |
| (2)高齢者が活躍できる社会づくりの普及啓発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 高齢者が活躍できる社会づくりに関する県民意識の醸成を図ります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 元気な高齢者の活躍の場を提供する様々なイベントを通して、明るく活力ある長寿社会づくりに向けた気運を醸成する。(ぐんまときめきフェスティバル、長寿社会・私のメッセージコンクール、情報誌「ときめき群馬」発行など) | ①ぐんまときめきフェスティバル参加者数 ②長寿社会・私のメッセージコンクール応募者数 | ①H22 : 1,000人 H23 : 1,685人 H24 : 1,879人 H25 : 1,791人 ②H22 : 911人 H23 : 746人 H24 : 708人 H25 : 719人 | 2,100人 | 2,100人 | 2,300人 | 7,067 | 7,024 | 6,640 | ぐんまときめきフェスティバルの開催 長寿社会・私のメッセージコンクールの開催 情報誌「ときめき群馬」を年3回発行(1回15,000部:配布先は、老人クラブ、シルバー人材センター、金融機関、医療機関等) | 4 | 団塊の世代が高齢期にさしかかり、本県は、県民の4人に1人以上が高齢者となった。明るい長寿社会の実現に向けての気運の醸成や高齢化に関する情報提供がより重要となるため、今後も継続して事業に取り組む必要がある。 | 4 | 元気な高齢者が活躍できるイベント等に、より高齢者が主体となって参画できるような工夫をしながら、継続。 | | | |
| 1 高齢者の活躍への導入支援 小計 | | | | | | | | | | | | 35,840 | | | | | | | | | | |

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ2>2

| 主な取組(B) | 施策(C) | 事業(D) | 個別事業(E) | | | | | | | | | | 決算額 | 事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応) | | | | | | | | | |
|--|-------|-------|------------------------|-------|-------|---|---|--|--|--------------|--------------|---------------------|--------|---------------------------|---|--|---|---|--|---|-------------------|----------|--------|
| | | | 個別事業名 (予算上の事業または事項) | 新規/再掲 | 担当部局 | 担当課 | 個別事業概要 | 目標・指標 | | | | 予算額 | | H25 決算 (千円) | H25事業結果 | 部局評価 | 財政課評価 | | | | | | |
| | | | | | | | | 成果(結果)を示す項目 | 実績値 (過去4年間) | | | | | | | 目標値 | | | | H25 当初 (千円) | H26 当初 (千円) | 評価 区分 | 評価の考え方 |
| | | | | | | | | | H22 H23 H24 H25 | H25 (前年度) | H26 (当年度) | H27 (総合計画 終期) | | | | ※評価区分の凡例 1. 廃止・休止・終了 2. 縮小・一部廃止・統合 3. 拡充 4. 継続 | | | | | | | |
| 2 高齢者の社会参加・社会貢献の促進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)高齢者の社会参加・社会貢献の支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ ボランティア活動などの実績を評価する仕組みとして「群馬はばたけ通帳(仮称)」制度の導入を検討するなど、高齢者の社会貢献を奨励し、意欲を持って活動に参加できるよう応援します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 「群馬はばたけポイント制度」推進 | 健康福祉部 | 介護高齢課 | 高齢者の社会参加を推進するため、介護保険制度を活用した、「介護支援ボランティアポイント制度」を基本的な枠組みとした、本県独自の新たなボランティア制度の仕組みを市町村とともに推進する。 | 実施市町村数 | H24 1市町村 (制度運用初年度) H25 2市町村 | 10市町村 | 12市町村 | 18市町村 | 249 | 248 | 193 | 桐生市へ平成24年度のポイント交換用ぐんまちゃんグッズを提供。桐生市、館林市へポイント手帳と活動実績スタンプを提供 | 4 | 事業実施市町に於いては、ボランティアや実施施設の拡充を図り、未実施市町村に対しては実施を呼びかけ、事業を広げていく必要がある。 | 4 | 高齢者の社会貢献を奨励するとともに介護予防を推進するための制度であり、継続。本制度の充実を図るため、参加市町村数を増やす方策の検討が必要。 | | | | |
| | | | 「ぐんまちよい得シニアバスポート事業」推進 | 健康福祉部 | 介護高齢課 | 高齢者が地域との交流を図りつつ、自ら活動し続けるきっかけとするため、「ちよい得キッズバスポート」のシニア版を作成し高齢者の積極的な外出を促すとともに、地域とのつながりの強化や健康維持を図る。 | 協賛店舗数 | H24: 1,114店舗 (H25.1.15~制度開始) H25: 1,424 | 2,200店舗 | 2,200店舗 | 3,000店舗 | 1,000 | 1,000 | 957 | ぐーちよきシニアバスポート及び案内チラシの作成、市町村への配布依頼。県広報媒体や商工団体を通じた、協賛店舗募集広報。ぐーちよきショップ店舗検索システムの改修、情報統合。 | 4 | 引き続き、ぐーちよきシニアバスポートを作成、配布し、協賛店舗数を増やすべく募集を続ける必要がある。 | 4 | 高齢者の外出を促し、地域交流や健康維持を図る事業であり、継続。「ぐんまちよい得キッズバスポート」の連携を強化し、効率的・効果的な事業実施に努める必要。 | | | | |
| ■ シニア就業支援センターにおいて、地域活動などに関する相談、情報提供を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | シニア就業支援センター運営 | 産業経済部 | 労働政策課 | 中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。 | 利用者数 | H22: 678人 H23: 1,090人 H24: 1,249人 H25: 1,573人 | 990人 | 1,100人 | 1,200人 | 12,000 | 12,000 | 11,886 | (財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就業、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。平成23年度からは新たに中高年齢者向けの職業紹介と高齢者の能力活用事業を実施している。 | 4 | 中高年齢者の雇用については、引き続き厳しい状況が続いており、中高年齢者に特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを併せた職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。 | 4 | 中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組む必要があるため、継続。企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効率的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていること。 | | | | |
| (2)社会参加の情報提供システムの構築 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 高齢者が自分に合った活動に参加するための情報を容易に手に入れることができるように、学習、スポーツ、ボランティアなどさまざまな団体等の活動情報を提供するシステムを構築します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ぐんま元気シニア応援ネット | 健康福祉部 | 介護高齢課 | 高齢者が自分にあった活動に参加するための情報を容易に手に入れることができるように、学習、スポーツ、ボランティア、就業など、様々な団体等の活動情報を提供するホームページを作成する。 | 年間アクセス数 | H24: 1,987件 (H25.3.1~制度開始) H25: 6,878件 | 2,500件 | 2,500件 | 3,000件 | 部局予算対応 | 部局予算対応 | - | 「ぐんま元気シニア応援ネット」を平成25年3月に開設。元気な高齢者が社会参加や社会貢献活動をするための情報を容易に入手できるように、県ホームページを活用し、学習、スポーツ、ボランティアなど様々な団体の活動情報や各種イベント・講習会の開催情報等を掲載し、情報発信した。 | 4 | 平成24年度にシステムを構築したところであり、引き続き内容を充実させる必要がある。また、各種メールマガジンなどを活用し、本ネットの認知度を高めるよう努めていく必要がある。 | 4 | 高齢者が社会参加するための情報提供は必要であることから継続。ただし、現状は各圏域の市町村、社協ホームページへのリンク集であることから、各市町村等の協力を得て、社会参加や社会貢献活動情報に特化した内容を提供するとともに、利用者が増加するための取組を充実させる必要がある。 | | | | |
| 2 高齢者の社会参加・社会貢献の促進 小計 | | | | | | | | | | | | 13,248 | | | | | | | | | | | |
| 3 高齢者の働く意欲や能力の活用支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)高齢者の就労支援や技能の活用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ シニア就業支援センターにおいて、高齢者の意欲と能力の発揮に向け、就労の支援をします。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | シニア就業支援センター運営 | 再掲 | 産業経済部 | 労働政策課 | 中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。 | 利用者数 | H22: 678人 H23: 1,090人 H24: 1,249人 H25: 1,573人 | 990人 | 1,100人 | 1,200人 | 12,000 | 12,000 | 11,886 | (財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就業、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。平成23年度からは新たに中高年齢者向けの職業紹介と高齢者の能力活用事業を実施している。 | 4 | 中高年齢者の雇用については、引き続き厳しい状況が続いており、中高年齢者に特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを併せた職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。 | 4 | 中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組む必要があるため、継続。企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効率的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていること。 | | | |
| ■ 高齢者に対して、シルバー人材センターにおいて地域に密着した仕事を提供することを促進します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | シルバー人材センター事業補助 | 産業経済部 | 労働政策課 | シルバー人材センター連合及びシルバー人材センターの運営費等に助成する。 | 就業延人員(人日) | H22: 901,009人日 H23: 886,699人日 H24: 925,970人日 H25: 940,373人日 | 1,020,000人日 | 1,060,000人日 | 1,100,000人日 | 17,555 | 16,086 | 17,354 | 高齢者の就業を促進するため、群馬県シルバー人材センター連合会本部及び拠点センター分(33団体)の運営費補助金について、連合として指定を受けている(財)群馬県長寿社会づくり財団へ交付した。 | 4 | 少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者に多様な就業機会を提供する本事業の必要性は高い。 | 4 | 高齢者の就業機会の提供・能力活用に取り組む必要があるため継続とするが、引き続き補助金の必要性・妥当性を検証し、より補助効果が発揮されるための見直しを行うなど、適切な執行に努めること。 | | | | |
| (2)定年帰農者等の支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 定年帰農者等の多様な人材の就農を促進するため、就農相談や研修会を開催するとともに、農林大学校等での技術習得に向けた支援により、円滑な就農を図ります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 農業者等研修(「ぐんま農業実践学校」推進) | 農政部 | 農林大学校 | 定年帰農者やターン・リターンによる就農希望者等を対象に、農業の基礎的な知識・技術についての実践的な研修を行い円滑な就農を図る。 | ぐんま農業実践学校受講者数 | H22 152人 H23 156人 H24 135人 H25 152人 | 145人 | 145人 | 145人 | 3,486 | 3,570 | 3,335 | 野菜、果樹、花きを中心に、県民のニーズに沿った「専門就農者課程」「定年帰農者課程」など4課程8コースの研修を開講し、就農に向けた栽培技術の習得と就農定着を支援した。 | 4 | 研修修了者の9割以上が就農を希望し、本県農業を支える人材育成のための重要な拠点となっているため、今後も継続的な事業実施が必要である。 | 4 | 例年多数の応募があり、修了者の就農率も高いことから、今後も効果的・効率的な研修に努めることとし、継続。 | | | | |

| 主な取組(B) | 施策(C) | 事業(D) | 個別事業(E) | | | | | | | | | | 決算額 | H25事業結果 | 事業の評価と改善の方向性(H27年度予算への対応) | | | | | | | | | |
|---|-------|-------|------------------------|-------|------|-----------------------|--------|-------------|----------------|---|-----------------------------|--|-------------|-------------|---------------------------|--------------------|--------------------------|--------------|--|-----------------------------------|---|--|---|-----------------------|
| | | | 個別事業名 (予算上の事業または事項) | 新規/再掲 | 担当部局 | 担当課 | 個別事業概要 | 成果(結果)を示す項目 | 目標・指標 | | | | | | 予算額 | | 部局評価 | 財政課評価 | | | | | | |
| | | | | | | | | | 実績値 (過去4年間) | | 目標値 | | | | H25 当初 (千円) | H26 当初 (千円) | H25 H26 H24 H25 | H25 (前年度) | H26 (当年度) | H27 (総合計画 終期) | 評価 区分 | 評価の考え方 | 評価の考え方 | |
| | | | | | | | | | H22 | H23 | H24 | H25 | | | | | | | | | | | | |
| (3)高齢者農業者の活動支援 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 高齢農業者による、直売所、量販店内の直売スペース、学校給食等を活用した地産地消への取組を支援します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 農業者等研修(「ぐんま農業実践学校」推進) | 再掲 | 農政部 | 農林大学校 | 定年帰農者やUターン・リターンによる就農希望者等を対象に、農業の基礎的な知識・技術についての実践的な研修を行い円滑な就農を図る。 | ぐんま農業実践学校受講者数 | H22: 152人 H23: 156人 H24: 135人 H25: 152人 | 145人 | 145人 | 145人 | 3,486 | 3,570 | 3,335 | 野菜、果樹、花きを中心に、県民のニーズに沿った「専門就農者課程」「定年帰農者課程」など4課程8コースの研修を開講し、就農に向けた栽培技術の習得と就農定着を支援した。 | 4 | 研修修了者の9割以上が就農を希望し、本県農業を支える人材育成のための重要な拠点となっているため、今後も継続的な事業実施が必要である。 | 4 | 例年多数の応募があり、修了者の就農率も高いことから、今後も効果的・効率的な研修に努めることとし、継続。 | |
| 3 高齢者の働く意欲や能力の活用支援 小計 35,226 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 高齢者の活躍を支える体制の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1)社会参加・社会貢献の総合的な推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 高齢者の就労支援、生涯学習支援、生活支援などの各分野の施策を体系化し、高齢者の社会参加・社会貢献を総合的に促進します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 「ぐんま元気・活躍高齢者プラン」の推進 | | 健康福祉部 | 介護高齢課 | 各部局が行う高齢者の就労支援、生涯学習、健康づくり等の各分野の高齢者関連施策を体系化したプランを策定し、連携のうえ推進する。 | プラン掲載事業目標値(17項目)の現状比上昇件数の割合 | H24: 59% H25: - (H26.10把握予定) | 50% | 70% | 100% | ※最終年度 H26年 度 | 5 | 5 | 5 | プラン掲載事業の進捗状況照会。関係課室による、進捗状況会議を開催。 | 4 | 平成26年度に第2期プランを策定し、引き続き進捗状況を把握、検討する必要がある。 | 4 | 高齢者が活躍できる社会の実現に向け、継続。 |
| (2)多様な分野における高齢者の活躍の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ■ 家庭・学校・企業等における「人づくり」などの多様な分野において、高齢者のマンパワーの効果的な活用を推進します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | シニア就業支援センター運営 | 再掲 | 産業経済部 | 労働政策課 | 中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。 | 利用者数 | H22: 678人 H23: 1,090人 H24: 1,249人 H25: 1,573人 | 990人 | 1,100人 | 1,200人 | 12,000 | 12,000 | 11,886 | (財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就農、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。平成23年度からは新たに中高年齢者向けの職業紹介と高齢者の能力活用事業を実施している。 | 4 | 中高年齢者の雇用については、引き続き厳しい状況が続いており、中高年齢者に特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを伴った職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。 | 4 | 中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組む必要があるため、継続。企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効果的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていくこと。 | |
| | | | | | | シルバー人材センター事業補助 | 再掲 | 産業経済部 | 労働政策課 | シルバー人材センター連合及びシルバー人材センターの運営費等に助成する。 | 就業延人員(人日) | H22: 901,009人日 H23: 886,699人日 H24: 925,970人日 H25: 940,373人日 | 1,020,000人日 | 1,060,000人日 | 1,100,000人日 | 17,555 | 16,086 | 17,354 | 高齢者の就業を促進するため、群馬県シルバー人材センター連合会本部分及び拠点センター分(33団体)の運営費補助金について、連合として指定を受けている(財)群馬県長寿社会づくり財団へ交付した。 | 4 | 少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者に多様な就業機会を提供する本事業の必要性は高い。 | 4 | 高齢者の就業機会の提供・能力活用に取り組む必要があるため継続とするが、引き続き補助金の必要性・妥当性を検証し、より補助効果が発揮されるための見直しを行うなど、適切な執行に努めること。 | |
| 4 高齢者の活躍を支える体制の整備 小計 28,091 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |